

SOMPOリスクマネジメント株式会社

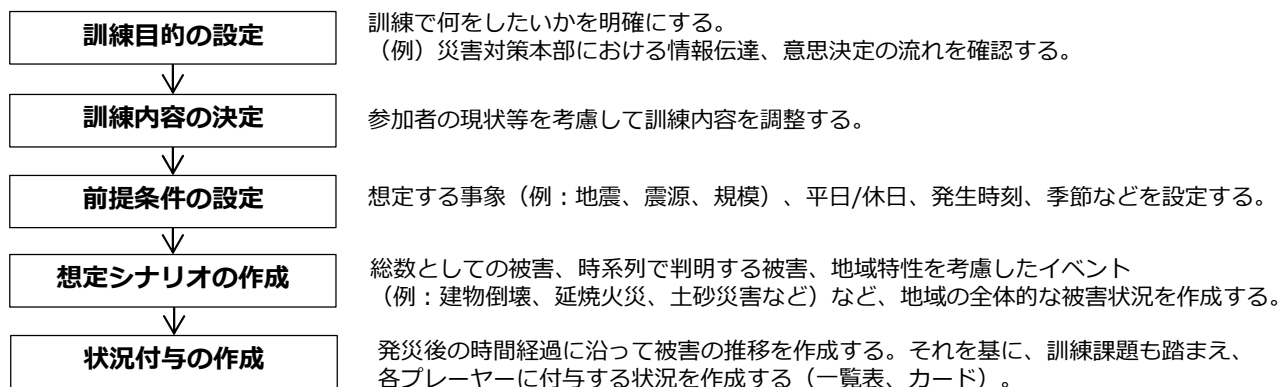
ご提案

いざという時の災害対応力は職員に身に付いていますか？危機管理・防災に係る各種計画・マニュアル等を作成しただけで満足していませんか？訓練でできないことはいざという時にはできません。危機管理・防災に関する知識を身につけ、実践的訓練を重ねることが重要です。弊社は職員の災害対応力をアップさせるために必要な教育・訓練をご提案いたします。



地震や風水害など様々な事象を想定した比較的簡易な訓練（例：ディスカッション中心のワークショップ）から災害対策本部会議の実施までの本部運営図上訓練（例：シナリオ非開示のロールプレイング訓練）、討議型訓練等、皆様の組織の現状と課題にあった各種訓練の企画・実施をご提案します。

対応シミュレーション訓練の企画フロー



- 演習の最後に、災害対応経験者等による「解説」を行います。
- 防災未経験者だけでなく、防災担当者にも参考になる情報をご紹介します。

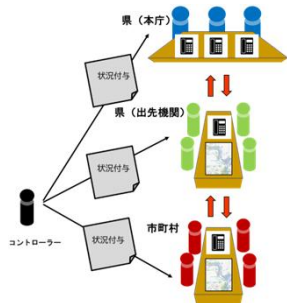
【事例：岡山県】 県庁、市町村職員を対象とした風水害対応訓練

岡山県では、東日本大震災の発生（平成23年3月）以前より、県と市町村が一体となって風水害対応に取り組む訓練が毎年実施されています。弊社は、平成30年7月豪雨の教訓を踏まえ、その取組をより一層推進する訓練の企画、運営を支援しました。

R7年度実績 参加人数：94名 訓練時間：13時～17時

訓練の概要

被害状況等の情報収集・共有や各機関の活動調整などの情報連携を行い、災害対応力の向上を目指し、台風事象の災害へ対応しました。



- ① コントローラーが、訓練の前提（初期状況）や、刻々と変化していく自然現象や被害等の状況（例：台風の進路、被害状況等）をプレイヤーに付与する（カード配布、スライド映写、マイクアナウンスなど）
- ② 市町村は、災害対応にあたるとともに県（本庁）、県（出先機関）に情報を共有する
- ③ 県（本庁）は、情報をとりまとめて必要な支援を検討する。



地図を用いた対策会議

弊社の支援内容

県担当者と密に連絡を取りながら、より実効性の高い訓練を提案、円滑な訓練のための参加者へのフォロー等を行いました。

- 訓練準備：シナリオの作成、訓練の対象地域の災害特性に対応した状況付与カードの作成
 訓練当日：コントローラー（全体統制、カード配布、模擬プレイヤーなど）、参加者へのフォロー（問合せ対応など）、訓練状況の観察・記録、訓練直後の講評
 訓練後：アンケート集計、訓練記録のとりまとめ、課題の抽出・提言、報告書の作成



訓練内容の説明

SOMPOリスクマネジメント株式会社

図上訓練に関するコンサルティングについて

図上訓練の開催にお悩みではありませんか？

弊社では、これまで訓練や災害の経験が少ない自治体でも、簡易な訓練からでも安心して取り組めるよう、準備から本番までサポートします。

実施例 ～ 岡山県吉備中央町 水害対応訓練（令和3年度岡山県水害対応訓練支援業務委託）



岡山県と管内市町村が連携した水害対応訓練で、吉備中央町の訓練支援を行いました。町では、災害対策本部の実設、避難所運営訓練との連携など、実践的な対応を行っています。

弊社では、訓練計画や状況付与（災害シナリオ）の作成、コントローラー（進行、問合せ対応）配置の支援を行っています。

価格例

※税抜き。物件費等は別途積算。具体的な業務内容や期間について、ご相談に応じて対応いたします。

訓練規模	準備・アウトプット	訓練当日	価格
・20名程度（災対本部員、防災担当課） ・半日	・打合せ2回 ・説明会資料 ・状況付与 20～30件	コントローラー 兼記録2名	40万円～

ご支援の流れ（イメージ）

訓練のねらいを決める	計画・シナリオ作り	訓練本番	振り返り、既存計画の見直し
災害対応で懸念される事項を踏まえ、訓練で鍛える点を決めます。 例) 部門間の情報連携 タイムラインの習熟 本部会議の運営	訓練のねらいとともに、地域特性を踏まえ、訓練と災害のシナリオを決めます。 ・地震 or 風水害 ・発災直後、3日後 等	弊社で訓練の進行統制役を配置可能です。 普段、訓練企画側の防災担当職員が、プレイヤーに専念することもできます。	対応の反省点等について振り返りを行うことで、既存計画の改善につながります。 ご要望に応じ、訓練評価やアンケート作成もご支援できます。

このほか、行政機関向け危機管理・防災総合コンサルティングについてはHPをご覧ください。

<https://www.sompo-rc.co.jp/services/view/107>

SOMPOリスクマネジメント株式会社

討議型訓練に関するコンサルティング

「訓練を実施したが、検証結果が計画改善等に活かされていない気がする」等といった悩みはないでしょうか。防災計画の評価・検証に特化した手法である『**討議型訓練**（「**机上訓練**（Table Top Exercise, TTX）」、「**検討会**」方式訓練）』についても、企画から訓練実施までサポートします。

「討議型訓練」と「ロールプレイング型図上訓練」の違いと使い分け

項目	討議型訓練	ロールプレイング型図上訓練
主な特徴	「対話」重視 進行役の問いかけに対し、参加者が議論して解決策を探る。	「演習」重視 コントローラーからの状況付与に対し、役割になりきって対応する。
訓練形式	進行役（ファシリテーター）による進行 ※シナリオに追われず着実な意見交換が可能	状況付与による進行 ※時間経過と共に変化する状況への即応力が問われる
主な目的	計画・マニュアルの課題抽出 「この計画・手順で本当に動けるか？」を深掘りする。	対応能力・連携・手順の確認 「計画・マニュアル等に定めた手順通りに動けるか？」を検証する。
自由度	高（自由に意見交換が可能）	低（所定の役割に徹する必要がある）
準備負担	小（比較的安価・短期間で準備可能）	大（膨大なシナリオ・状況付与が必要）
対象者	ある程度の実務知識がある職員向け	初任者からベテランまで（機器の使用方法習熟や災害対応手順の習熟）

▼ ポイント

討議型訓練：じっくりと膝を突き合わせ、「マニュアルの不十分な点」や「組織間の認識ギャップ」を見つけ出すのに最適

ロールプレイング型図上訓練：本番さながらの緊張感で「通信機器等の使用方法の習熟」「災害対応能力」を鍛えるのに最適

「討議型訓練」のメリット（評価・検証の確実性）

ロールプレイング型図上訓練では、コントローラーからの付与情報の処理に追われ、本来の目的のひとつであった「計画等の評価・検証」がおろそかになりがちですが、『**討議型訓練**』には以下のメリットがあります。

課題の「見える化」：シナリオの進行を一時止めてでも、「なぜそう判断したのか？」「マニュアルの記載は適切か？」をその場で深掘りできます。

コストパフォーマンス：コントローラー等の要員や状況付与が不要なため、低予算・省力化で実施可能です。

認識の統一：関係機関が一堂に会して議論することで、文書だけでは伝わらない相互の動きを理解できます。

実際に自治体において『**討議型訓練**』を実施し、成果を上げている事例もあります。
（埼玉県、埼玉版FEMAについて、<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/fema/femagaiyou.html>）